

科目名 Course Name	ゼミナールⅡ(公務員) Seminar Ⅱ			ナンバリング No.	A2-019		
年次	1年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	宮下 義樹						
連絡方法	C-Learning で対応。または、教室、講師控室で対応。						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP1,DP2,DP5						
授業の概要と到達目標	<p>【授業の概要】 公務員試験に向けた内容について扱う。公務員試験に向けて知識を蓄えるだけでなく、職に就いたときに資する応用力などを得られる場とする。あわせて半年を通して、自身の得意と苦手の把握並びに春期休暇及びそれ以降における学習計画の構築をはかる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公務員試験に必要なポイントをおさえることができるようになる。 2. 論理的に思考することができるようになる。 3. 社会におけるさまざまな問題について多角的な視点から論じることができるようになる。 						
授業の方法	基本的な知識を講義した上で公務員試験の過去問題集を解き、知識を理解できているかの確認を行う。社会の理解を行うために、学生各自でテーマを決めて発表を行う。						
学習成果	L01	公務員試験に必要な知識を身に着けることで、就職への力となる。					
	L02						
	L03	自分でテーマを設定し問題を認識し発表を行うという自主的行動とコミュニケーション能力ができるようになる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	講義の中で対応する						
教科書/参考図書	<p>【教科書】 資格試験研究会 編『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ6 人文科学』(実務教育出版、2020年) ISBN:978-4788937208</p> <p>【参考図書】 必要に応じて講義中に提示する。</p>						
履修上の留意点やルール等	公務員試験を受けるということを前提に将来を見据えた学習を行う						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	質問への応答や積極的な発言から判断する	10		10	
レポート/作品	事実の説明と自分の考えができていないかを判断する	15		15	
発表	求めたテーマに対応しているか、要点を整理しているかなどで判断する	25		25	
小テスト					
試験					
その他					
合 計		50		50	

回数		授業計画
1	授業内容	日本史 古代・中世
	事前・事後学習	日本史の古代・中世の勉強を行う
2	授業内容	日本史 近世
	事前・事後学習	日本史の近世の勉強を行う
3	授業内容	日本史 近代・現代
	事前・事後学習	日本史の近代・現代の勉強を行う
4	授業内容	西洋史 古代・中世
	事前・事後学習	西洋史の古代・中世の勉強を行う
5	授業内容	西洋史 近代
	事前・事後学習	西洋史の近代の勉強を行う
6	授業内容	イスラーム史
	事前・事後学習	イスラーム史の勉強を行う
7	授業内容	東洋史
	事前・事後学習	東洋史の勉強を行う
8	授業内容	地理 人間と環境
	事前・事後学習	人間と環境の勉強を行う
9	授業内容	地理 生活と産業
	事前・事後学習	生活と産業の勉強を行う
10	授業内容	地理 世界と日本の諸地域
	事前・事後学習	各地の地域の特徴を勉強する
11	授業内容	思想 西洋思想
	事前・事後学習	西洋の思想史を勉強する
12	授業内容	思想 東洋思想
	事前・事後学習	東洋の思想史を勉強する
13	授業内容	文学
	事前・事後学習	日本文学と西洋文学を勉強する
14	授業内容	芸術
	事前・事後学習	西洋美術と東洋美術を勉強する
15	授業内容	時事問題
	事前・事後学習	世の中の流れを勉強し、学習計画を立てる

科目名 Course Name	ゼミナールⅡ(編入) Seminar II				ナンバリング No.	A2-021	
年次	1年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	松崎 勇人						
連絡方法	C-Learning で対応。または、本館2階研究室、火曜を除く昼休みや空き時間						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP2、DP3						
授業の概要と到達目標	<p>日本大学等に編入するために必要となる知識・技能・思考力を高めるために、どのような学習スキルが必要かを考え、学習スキルを身に付ける。</p> <p>①受験科目ごとに必要な学習方法が使えるようにする。</p> <p>②自己の学習に関する強さと弱さを評価して、学習スキル(学習方法)を高めることができるようにする。</p>						
授業の方法	個人で学習計画を立てて実行し反省するという過程と、それについて小グループで話し合いを持ち、助言し合うという演習形式で行う。その中で具体的学習スキルを伝授していく。						
学習成果	L01	学習計画を立て、実行し、反省し、修正して、受験科目の成績を上げることができる。					
	L02	自己の得意な学習スキルを教え、自己の弱い学習スキルを身に付けられる。					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	課題は講義中に返却し、コメントを加える。						
教科書/参考図書	特になし。必要に応じて自作プリントを配布する。						
履修上の留意点やルール等	極力休まないこと。学習計画を立て実行し、進んでモニタリングすること。積極的に話し合いに参加し教えあうこと。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回45分とする。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	最高水準としては、課題を行った上で与えられたテーマについて、仲間の意見を聞いて取り入れ、自分の意見を述べ相手に教えることができる。		40		
レポート/作品	20点満点の課題を三つ行うこと。学習計画を立て、実施の記録を取り、反省して変えていくことが出来ているかを評価する。	60			
発表					
小テスト					
試験					
その他					
合 計		60	40		

回数		授業計画
1	授業内容	オリエンテーション
	事前・事後学習	編入希望大学の試験科目の得点を上げる計画を立てる。
2	授業内容	能動的学習に必要なこと(学習前、学習中、学習後)
	事前・事後学習	どのように学習に取り組み、最も効果が上がるかを理解する。
3	授業内容	学習前にすべきこと(計画においてチェックすべきこと)。課題 1(編入試験科目の学習計画を作る)
	事前・事後学習	課題 1 を行う。
4	授業内容	学習中にすべきこと(モニタリングにおいてチェックすべきこと)。モニタリングシートの使い方。課題 1 の途中報告と話し合い。課題 2(学習モニタリングシートを付ける)
	事前・事後学習	課題 1 をより良いものに変える。モニタリングシートに、学習の記録を付ける。
5	授業内容	学習後にすべきこと(自己評価においてチェックすべきこと)。自己評価シートの使い方。課題 1 の提出締切。モニタリングの仕方についての話し合い。課題 3(編入試験科目得点の自己評価シートを付ける)
	事前・事後学習	モニタリングシートに、学習の記録を付ける。モニタリング活動を改善する。
6	授業内容	小論文を書くスキル。どのように考えるかについて話し合い。
	事前・事後学習	上記のスキルがどの程度あるか自己評価し、それを改善するにはどうすべきか考える。
7	授業内容	個人面接のスキル。演習問題を解く。
	事前・事後学習	上記のスキルがどの程度あるか自己評価し、それを改善するにはどうすべきか考える。
8	授業内容	専門試験(英語)に関わる学習スキル。演習問題を解く。
	事前・事後学習	上記のスキルがどの程度あるか自己評価し、それを改善するにはどうすべきか考える。
9	授業内容	専門試験(経済学)に関わる学習スキル。演習問題を解く。モニタリング活動の途中経過発表。
	事前・事後学習	上記のスキルがどの程度あるか自己評価し、それを改善するにはどうすべきか考える。
10	授業内容	専門試験(その他)に関わる学習スキル。演習問題を解く。
	事前・事後学習	上記のスキルがどの程度あるか自己評価し、それを改善するにはどうすべきか考える。
11	授業内容	小論文試験についての話し合い。個別支援。
	事前・事後学習	話し合いから取り入れられることを課題 2 に反映させる。
12	授業内容	面接試験についての話し合い。個別支援。
	事前・事後学習	話し合いから取り入れられることを課題 2 に反映させる。
13	授業内容	口頭試問についての話し合い。個別支援。
	事前・事後学習	話し合いから取り入れられることを課題 2 に反映させる。
14	授業内容	専門試験についての話し合い。課題 2 の提出締切。
	事前・事後学習	話し合いから取り入れられることを課題 2 に反映させる。
15	授業内容	春休みの学習計画を立てる。課題 3 の提出締切。
	事前・事後学習	春休みの学習計画を御立てて実行しモニタリングし、ゼミナールⅢの課題 1 として提出する。